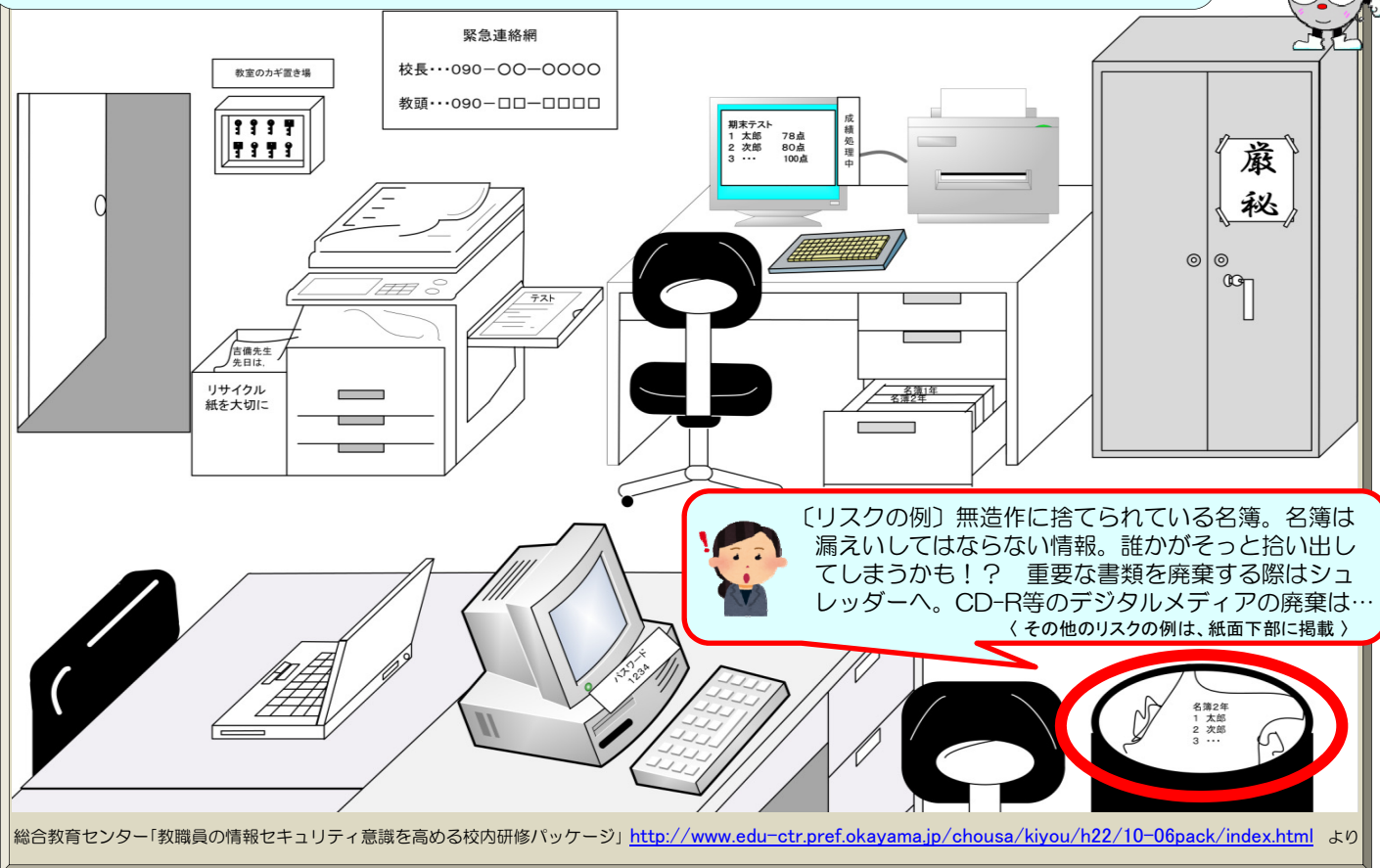


平成29年度第1号（通算279号）
平成29年4月21日（金）発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

確認を！ あなたの身近に情報セキュリティ上のリスクは？

ここは、〇〇学校の授業時間帯の職員室です。

Q. 情報セキュリティ上のリスク(危険箇所)はどこにあるでしょう。



上の図に挙げたリスクは、ほんの一例です。他にも、

- ・USBメモリ等の不適切な使用（許可されていない使用、紛失）
- ・不適切なパスワード管理（推測されそう、文字数が少ない、ずっと変更していない、使い回し…）
- ・不審なメールの開封等（心当たりのない送信者、添付ファイルやリンク、電話連絡先…）



等、あなたの身近にリスクはありませんか？

所属で決められているセキュリティに関する実施手順を順守しましょう。



● 情報セキュリティ意識の向上と具体的対策方法を身に付けるために ●

〔 情報セキュリティ研修講座 〕

・日時 7月27日(木)9:30~16:15 ・場所 総合教育センター

※詳細については、4月末に総合教育センターWebページに掲載予定の「研修講座案内」を御覧ください。

(担当・情報教育部)

次回の発行は、5月12日（金）の予定です。

【バックナンバー】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>

羅針盤

平成29年度第2号（通算280号）
平成29年5月12日（金）発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

適切な指導・支援のために、心理検査を活用しましょう。

心理検査の結果を、**日常の児童生徒の様子と照らし合わせた上で**、個々の児童生徒や学級（HR）の状態を分析し、具体的な指導・支援の改善に生かしましょう。

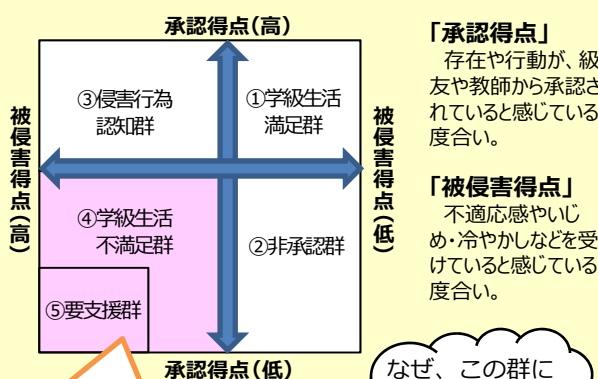
「心理検査」とは

「Q-U」「アセス」「i-check」等児童生徒をより丁寧に、客観的に理解するためのアセスメントツールです。

心理検査の活用のポイントを、個人、学級（HR）集団のそれぞれの捉えに分けて紹介します。（例：Q-U）

【個人の状態を捉える】

縦軸が「承認得点」、横軸が「被害得点」を表しており、児童生徒のプロットがどこにあるかで、個人の状態を捉えます。



「承認得点」
存在や行動が、級友や教師から承認されていると感じている場合。

「被害得点」
不適応感やいじめ・冷やかしなどを受けていると感じている場合。

なぜ、この群にプロットされているのだろう。

特に、④⑤にプロットされている児童生徒については、アンケートの回答から、どのようなことに不安や不満を感じているのかを把握することが大切です。

例えば、「B. いごこちのよいクラスにするためのアンケート」（中学校用）

10. 学校内に自分の本音や悩みを話せる友人がいる

12. クラスや部活でからかわれたり、ばかにされたりするようなことがある

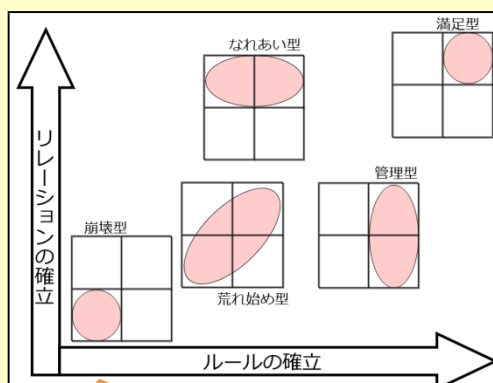
このような問いに、どう答えているのでしょうか。アンケートの回答から、児童生徒が、その群にプロットされている背景を分析し、一人一人の心情に応じた指導・支援をすることがポイントです。

<参考文献>

河村茂雄（2006）「学級づくりのためのQ-U入門」図書文化
岡山県総合教育センター（2017）「ともに創ろうおかやまの未来」

【学級（HR）集団の状態を捉える】

縦軸が「リレーション」の確立、横軸が「ルール」の確立という観点で、児童生徒のプロットがどこに集まっているかで、学級（HR）集団の状態を捉えます。



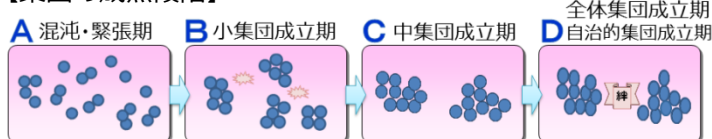
「リレーション」
安心して本音を言い合えるような人間関係のこと。

「ルール」
集団で安心して生活するための基本的なルールのこと。

学級（HR）集団の状態を「ルール」と「リレーション」の確立のバランスで把握し、取組の方向性を検討していきます。

取組のねらいは、どこに置けばよいのだろう。

【集団の成熟段階】



学級（HR）集団は、A～Dのどの成熟段階に近いでしょうか。「ルール」と「リレーション」をバランスよく確立させる取組を行う際、学級（HR）集団を次の段階へ一つ成熟させることをねらいとすることがポイントです。

心理検査をさらに活用するために、研修講座に参加しませんか？

7月31日（月）講座番号：C293423

「学級（HR）づくり等に活用できるアセス等を用いた児童生徒理解研修講座（基礎）」

8月3日（木）講座番号：C293432

「Q-U等を活用した学級（HR）集団づくり研修講座（課題別）」

申込受付中です！

次回の発行は、6月2日（金）の予定です。

【バックナンバー】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>

（担当・生徒指導部）

羅針盤

平成 29 年度 第 3 号 (通算 281 号)
平成 29 年 6 月 2 日 (金) 発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

気になる子供の実態把握について～アセスメントシート分析パッケージの活用～

当センター特別支援教育部では、平成 27 年度に複数の観点に関連付けて子供たちの学習上の困難を把握し、それに対応した指導・支援の方法を一括して提供する「アセスメントシート分析パッケージ」(以下、「分析パッケージ」という。)を開発しました。その中から、今回は「個別理解シート」を紹介します。

○「個別理解シート」 標準得点が 40 点以下の観点があった場合、推測される学習上の困難さとそれに対応する指導・支援の内容を「個別理解シート」(図 1) のコメント欄に自動表示するようにしました。



左図の「個別理解シート」は、問題④と問題⑧の標準得点が 40 点以下で、配慮を要するという意味の赤色表示がなされています。

問題④と問題⑧の観点に関連付けた推測される学習上の困難さが記述されています。

記述内容：「聴覚的な情報入力に困難さがあるため、集団場面や長い説明の際には、話の内容を聞き取れていなかったり、聞いたことを理解したり、記憶したりすることができず、話合いについていけなかったりすることなどが予想されます。」

推測される学習上の困難さに対応する指導・支援の例が記述されています。

記述内容：「聞く活動の際には、注意を喚起し、きちんと注目したのを確認してから指示や説明をしたり、分かりやすい言葉で簡潔に指示をしたり、聞き誤りやすい言葉は板書をしたりするなどの配慮が有効であると考えられます。」

図 1 「個別理解シート」

通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりを進めるに当たって、様々な認知特性を示す子供たちの的確な実態把握ツールとして、ぜひ分析パッケージを活用してください。ただし、子供の実態把握をする際には、分析パッケージによる実態把握とともに、これまで通り教員による授業の行動観察を併せて検討し、総合的に実態把握をすることが必要です。その点に留意して、活用するようお願いいたします。

また、昨年度は、特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりを行う際に、分析パッケージを活用した実態把握の手順について解説した「手順編」と、実態把握に基づいた小学校と中学校の指導・支援の実例を紹介した「実践編」で構成したブックレット(図 2)を作成しました。こちらも併せて活用してください。

8 月 9 日(水)に実施する「通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり基礎研修講座」では、ブックレットで紹介した小学校と中学校の実践発表があります。ぜひ御参加ください。

なお、分析パッケージの活用を希望する学校には送付しますので、当センター特別支援教育部まで御連絡ください。【電話番号 0866-56-9106】

(担当・特別支援教育部)

【バックナンバー】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho>



図 2 「ブックレット」

羅針盤

平成29年度第4号(通算282号)

平成29年7月14日(金)発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

授業改善に向けた授業研究会の進め方

今号は、教育時報6月号の特集(「主体的・対話的で深い学び」-アクティブ・ラーニングの視点による授業改善-)で掲載された先進的な取組を行う学校の「授業研究会」の事例を紹介します。夏期休業中の研修内容や今後の授業研究会の進め方の参考にしてください。

「生徒の具体的な活動」と「期待される学びの姿」に着眼した研究協議

【指導計画】	【コアとなる活動】	【教師の支援】
前時 本時 次時 後時 【授業展開】 導入 展開 まとめ 【研究主題との関連】	生徒の具体的な活動 ① ② ③ ・アクティブ・ラーニングを意図した場面が一目でわかるように、ロゴマークをつける。 ・生徒の立場で具体的に... 期待される生徒の学びの姿	【評価】

金光中が開発した授業デザインシート

学校独自で開発した「授業デザインシート(展開場面に「主体的・対話的で深い学び」に関する「生徒の具体的な活動」と「期待される学びの姿」を明記)」を用いて、授業研究を行っています。【浅口市立金光中学校】

授業デザインシートの活用により、授業者は、1単位時間の中に課題解決的な活動や互いの考えをアウトプットする場をどのように取り入れるかイメージしやすくなります。また、参観者にとっても、本時の位置付けや授業者のねらいを容易につかむことができ、協議の視点を焦点化することにもつながります。いいね!

「育成を目指す資質・能力」に基づいた視点で深める研究協議

学校全体で「育成を目指す資質・能力」を明確にした上で、教科を超えたチームを結成し授業づくりを行っています。授業を参観する際は、付せん紙に「生徒の姿・つぶやき・発言」と「教員の支援・手立て」を区別して記述し、可視化しながら分析しています。【県立倉敷天城中学校】

「育成を目指す資質・能力」に対して三つの視点(主体的な学び・対話的な学び・深い学び)からの手立てが有効であったかどうかを可視化しながら分析することが更なる授業改善につながります。また、目的に応じ、教科・学年を超えたチームで話し合うことで、共通する支援について理解を深めることができます。



ベン図を用いての可視化



授業力向上に向け、優れた実践を教員全体で共有する取組

「授業について互いに語り合う職員室」を目指して、年2回の授業参観月間を設けています。事前に「私の授業ここが見どころ」を冊子にして全教員に配付し、参観後は参観シートに感想等を書いて授業者に渡すようにしています。また、授業参観で気付いたことを、「指名の工夫」「発問の工夫」「板書の工夫」などの項目に分けて、リーフレット「授業の知恵袋」にまとめています。【県立岡山一宮高等学校】

授業参観月間のように、様々な機会を捉えて互いの授業を見合うことで、個々の教員の優れた実践を全体で共有することができます。また、今後の自分の授業に生かせるよう、参観を通して得られた「気付き」を好事例として紙面に残すことで、より授業改善の実行性が高まります。



お知らせ1

今号の内容は、**教育時報【6月号】**に詳しく掲載しています。また、研修には、**リーフレット**(県総合教育センターHPからダウンロード可能)を御活用ください。



リーフレット(全校種版と高等学校版)

お知らせ2

講座番号: D022102

「アクティブ・ラーニング」研修講座

日時: 11月1日(水) 9:30-16:15

◆実践発表(平成29年度研究協力校4校)

◆講演「主体的・対話的で深い学びとは

～カリキュラム・マネジメントを取り入れて～(仮題)

講師: 早稲田大学教職大学院 教授 田中 博之先生

次回の発行は、8月1日(火)の予定です。

(担当・教科教育部)

【バックナンバー】<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>

羅針盤

平成29年度 第5号（通算283号）

平成29年8月1日（火）発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

新学習指導要領の円滑な実施に向けて ～小学校外国語教育の移行措置について～

文部科学省は、新学習指導要領を平成29年3月31日に公示、各教科・領域の解説を6月に告示しました。今回の改訂の中での主な改善事項の一つ「外国語教育の充実」では、小学校において、中学年（3・4年生）で「外国語活動」を、高学年（5・6年生）で「外国語科」を導入することとなっています。今号では、平成32年度の全面実施に向けての移行措置や新教材の整備等についてお知らせします。

移行措置期間中（平成30・31年度）の小学校外国語教育

（小・中学校新教育課程説明会（中央説明会）から 平成29年6月）

3・4年生

時間数

- 新たに年間15単位時間を確保し、外国語活動を実施する。

外国語活動の授業時数の実施のために、特に必要がある場合には、年間総授業時数及び総合的な学習の時間の授業時数から15単位時間を越えない範囲内で授業時数を減じることができる。

内容

- 高学年との接続の観点から最低限必要な内容と、それを活用して行う言語活動を中心に扱う。

教材

- 現在文部科学省が開発している新学習指導要領に対応した教材から、必要な内容を配布する。



5・6年生

時間数

- 新たに15単位時間を加え、年間50単位時間を確保する。

内容

- 外国語活動の内容に加えて、外国語科の内容を扱う。外国語科の内容については、中学校との接続の観点から最低限必要な内容と、それを活用して行う言語活動を中心に扱う。

教材

- 「Hi, friends!」（現行学習指導要領に対応した5・6年生外国語活動用教材）や、現在文部科学省が開発している新学習指導要領に対応した教材から、必要な内容を配布する。

新学習指導要領に対応した新教材は、今年度中に発表、配布されます。

【今後のスケジュール（予定）】

平成29年9月 高学年新教材・指導書の公表

平成29年12月 中学年新教材・指導書の公表

平成30年2月 新教材（3～6年）配布

お知らせ

開催日決定！

県総合教育センターサテライト講座

【倉敷教育センターと連携した学校授業研修会】

中学校英語：平成29年10月11日（水）13:15-16:15 倉敷市立庄中学校

中学校数学：平成29年10月24日（火）13:15-16:15 倉敷市立連島南中学校

次回の発行は、9月15日（金）の予定です。

（担当・教科教育部）

【バックナンバー】<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>



羅針盤

平成 29 年度 第 6 号 (通算 284 号)
平成 29 年 9 月 15 日 (金) 発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

小・中学校新学習指導要領 各教科等における特別支援教育の記述の新設



文部科学省より3月に示された小学校学習指導要領総則には、「障害のある児童などについては、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。」と示されています。同様の内容が中学校学習指導要領総則にも記述されています。これを受けて、全ての教科等の学習指導要領解説「指導計画の作成と内容の取扱い」において、資質・能力の育成、各教科の目標の実現を目指し、児童生徒が十分な学びが実現できるよう、学びの過程で考えられる「困難さの状態」に対する「指導上の工夫と意図」と「手だて」の例が新たに挙げられました。その一部を紹介します。

〈小学校国語科の配慮の例〉

・自分の立場以外の視点で考えたり他者の感情を理解したりするのが困難な場合には、児童の日常生活経験に関する例文を示し、行動や会話文に気持ちが込められていることに気付かせたり、気持ちの移り変わりが分かる文章の中のキーワードを示したり、気持ちの変化を図や矢印などで視覚的に分かるように示してから言葉で表現させたりするなどの配慮をする。

〈小学校体育科の配慮の例〉

・勝ち負けに過度にこだわったり、負けた際に感情を抑えられなかったりする場合には、活動の見通しがもてなかったり、考えたことや思ったことをすぐに行動に移してしまったりすることがあることから、活動の見通しを立ててから活動させたり、勝ったときや負けたときの表現の仕方を事前に確認したりするなどの配慮をする。

〈中学校音楽科の配慮の例〉

・音楽を聴くことによって自分の内面に生まれる様々なイメージや感情を言語化することが難しい場合は、表現したい言葉を思い出すきっかけとなるよう、イメージや感情を表す形容詞などのキーワードを示し、選択できるようにするなどの配慮をする。

〈中学校外国語科の配慮の例〉

・英語の語には、発音と綴りの関係に必ずしも規則性があるとは限らないものが多く、明確な規則にこだわって強い不安や抵抗感を抱いてしまう生徒の場合、語を書いたり発音したりすることをねらう活動では、その場で発音することを求めず、ねらいに沿って安心して取り組めるようにしたり、似た規則の語を選んで扱うことで、安心して発音できるようにしたりするなどの配慮をする。



「なお、学校においては、こうした点を踏まえ、個別の指導計画を作成し、必要な配慮を記載し、翌年度の担任等に引き継ぐことなどが必要である。」とも示されています。 (小・中学学習指導要領解説より一部抜粋)

今回の改訂で、このような例示がなされたのは、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や支援を一層充実させていく必要性からです。この例示を参考にしながらも、個々の学習上及び、生活上の困難は異なることをしっかりと踏まえ、適切な指導を行っていくことが大切です。また、一人一人に応じた手だての検討から見直しまでのPDCAサイクルを組織的に行之、学校全体で、子どもたちの十分な学びを保障していくことが重要です。

(担当・特別支援教育部)

【バックナンバー】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho>





平成29年度 第7号(通算285号)
平成29年10月27日(金) 発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

平成30年2月17日(土) 開催!!

平成29年度岡山県総合教育センター 教育研究発表大会

日時 平成30年2月17日(土) 10:30~15:10
会場 岡山県総合教育センター
日程



10:00	受付開始
10:30	開会行事
10:55	所員発表Ⅰ ・新学習指導要領の趣旨を生かした授業づくりのポイント (教科教育部、最終報告) ・不登校やいじめ、暴力行為等を生まないための学校づくりに関わる校内研修パッケージの開発Ⅱ (生徒指導部、最終報告) ・情報モラルに関する研究(スマホ・ネット問題に関する実践事例の収集と情報提供) (情報教育部、最終報告)
12:05	昼食・展示鑑賞・模擬体験 ・研修講座及び学校支援等の展示(センター事業紹介) ・教育資料等の展示 ・国の動向や岡山県教育施策等に関する展示 ・模擬体験講座
13:05	長期研修発表 ・通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた国語科の授業づくり (小学校、特別支援教育) ・国語科における言語能力の向上を目指した指導の工夫 (中学校、国語) ・問題解決能力の育成を目指した指導法についての一考察 (高等学校、数学)
14:00	所員発表Ⅱ ・OJTガイドブック実践事例集～学校の課題解決に向けた校内チーム制の効果的な進め方に関する研究 (教育経営部、中間報告) ・探究するために必要な資質・能力を育む理科の授業づくりに関する研究 (教科教育部、中間報告) ・知的障害教育における主体的・対話的で深い学びに関する研究 (特別支援教育部、中間報告)
15:00	閉会

※研究テーマは仮題です。変更する可能性があります。

その他 申込み方法等、詳細については12月配付予定の【御案内】で御連絡します。

(担当・教育研究発表大会係)

【バックナンバー】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>

羅針盤

平成29年度第8号（通算286号）
平成29年11月24日（金）発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

生徒指導体制の点検・見直しをしましょう！！

1年間の取組をPDCAサイクルで考えると、点検・見直し（C）の時期を迎えます。これまでを振り返り、年度後半の取組の充実や、新年度の年間指導計画の作成に生かしましょう。振り返る際の主なチェックポイントについて、校内の生徒指導体制と地域や外部との連携・協働に焦点をあてて紹介します。

☆主なチェックポイント

- 指導方針に基づいて、一貫した取組ができていますか。
- 全教職員で取組や指導を行っていますか。
- 全教職員が、児童生徒の性格特性や心身の発達課題等を共有していますか。
- 定期的に、取組や指導の状況を確認していますか。
- 学校として、家庭や地域、関係機関と連携を図っていますか。



・警察署
・児童相談所
・福祉事務所
・民生委員 等

地域や外部との
連携・協働

校内の生徒指導体制



今、ここです！

☆主なチェックポイント

- 連携の基軸に児童生徒が置かれていますか。
- つなぎ役となる人（コーディネーター）が明確になっていますか。
- 日頃から情報交換を行うなどの協働関係を築けていますか。
- 健全育成や有効な支援のための取組や会議が行われていますか。
- 役割や権限などの相互理解ができていますか。



☆1年間のPDCAサイクル

- P・・・指導方針を具体的に定め、年間の生徒指導計画に盛り込む。
- D・・・校内研修等により教職員間で共通理解を図り、一貫性のある生徒指導を行う。
- C・・・教職員による自己評価や学校自己評価、児童生徒対象のいじめに関するアンケート等、多面的な視点から、定期的な点検・見直しを行う。
- A・・・今後の改善策を検討し、**継続した取組**にしていく。



職場の**同僚性向上**に向けた取組も大切に！！

参考文献

- ・文部科学省『生徒指導提要』
- ・学事出版『生徒指導提要を理解する実践する』尾木和英・有村久春・嶋崎政男 著
- ・学事出版『現代生徒指導論』日本生徒指導学会 編著

今年度の振り返りを生かして、新年度の年間指導計画を作成しましょう。様々な機会を通して、**全教職員に対して生徒指導にかかわる意識を喚起**するとともに、生徒指導の充実に向けて、教職員研修の機会を意図的に組み入れましょう。



©岡山県「ももっち」

『教育時報』12月号特集もぜひ参考にしてください。

【バックナンバー】<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>（担当・生徒指導部）

次回の発行は、
12月18日（月）の予定です。

羅針盤

平成29年度第9号(通算287号)

平成29年12月18日(月) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

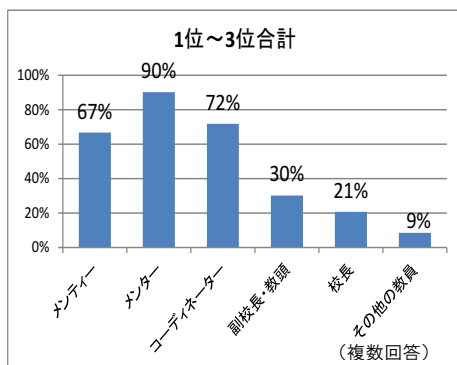
学校の課題解決に向けた校内チーム制の効果的な進め方Ⅰ

校内チーム制を機能させるポイント

平成28年度から「岡山県公立学校教員等人材育成基本方針」に基づく校内チーム制が実施され、現在、各校において、「関わり合い」の仕組みが形成されつつあります。この校内チーム制を機能させるためのポイントは何か、また、若手育成等の人材育成にとどまらず、学校の課題解決や組織の変容にどうつなげていくか等について、当センターでは研究を進めています。

シリーズⅠの今号では、研修講座受講者へのアンケート結果等をもとに、「校内チーム制を機能させる上で重要な立場」に着目して、そのポイントについて紹介します。

■機能させる上で重要だと思う立場



※アンケートについて

H29年10月から11月に、副校長・教頭や若手教員等1540名へ実施。

アンケート結果では、自校の校内チーム制が「機能している」という回答が、84%でした。機能させる上で重要だと思う立場の人を重要と思う順から三つ挙げてもらったところ、メンター(先輩教員)、コーディネーター、メンティー(若手教員)の順でした。

また、その理由の記述内容等から、校内チーム制を機能させるためには、メンティーとメンターの活発な「関わり合い」があること、特にメンティーが積極的にOJTに参加し、対話の主体となることが大切であることが見えてきました。

その前提として、メンティーが自身のニーズや意見を遠慮せずに伝えること、意欲的な取組により指導力を向上させることが必要であることも分かってきました。そして、それらが他の教員への刺激となり、学校全体のOJTを活性化させることにつながるという意見もありました。

〈メンティーが対話の主体となるOJTとするために〉

《ポイント1》メンターによる受容的態度と専門性に基づく働きかけ

メンターは、メンティーに立場に近い先輩教員として、メンティーが相談しやすい雰囲気をつくり、メンティーの思いや考えを引き出すことが大切です。また、メンティーの指導力向上のため、優れた教育実践をもとにメンティーと学び合うなど、高い専門性に基づく働きかけがOJTの質を高めます。

《ポイント2》コーディネーターによる学校全体の教育活動に連動させる働きかけ

OJTチームでの協議が個々のスキルアップにとどまらず、児童生徒の成長のために活かせるものとなるように協議や取組を導くこと、チームで出された意見を学校全体で共有し、教育活動の改善に向けて反映できるようにすることが大切です。そのような働きかけにより、チームのモチベーションが高まり、OJTチームの主体性も促進されます。

《ポイント3》管理職によるボトムアップの方式へ導く働きかけ

校内チーム制の構築については、管理職の明確なビジョンや強いリーダーシップが必要ですが、実際の運用では、メンターやコーディネーター等を中心としたボトムアップの方式になるように管理職が働きかけることが大切です。OJTチーム会議の企画運営や今後の校内チーム制の在り方の改善等について、管理職に積極的に提案が出るような環境の醸成が、OJTの活性化や継続的な取組につながります。

シリーズⅡ(2月発行予定)では、学校の課題解決に向けた校内チーム制の効果的な進め方について、具体的な事例をもとに、更に詳しく紹介する予定です。(担当・教育経営部)

※次号の発行は1/31(水)の予定です。

【バックナンバー】<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>





平成29年度 第10号(通算288号)

平成30年1月31日(水) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

平成29年度岡山県総合教育センター 教育研究発表大会

日時 平成30年2月17日(土) 10:30~15:10

岡山県総合教育センター

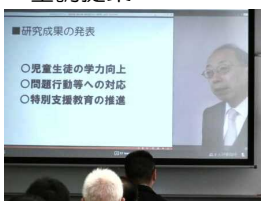
Webページ <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>



◎岡山県「ももっち」「うらっち」

開会行事

・基調提案



所員の研究発表

- 児童生徒の学力向上に関わる研究
- 特別支援教育の推進に関わる研究
- 問題行動等への対応に関わる研究
- 人材育成に関する研究



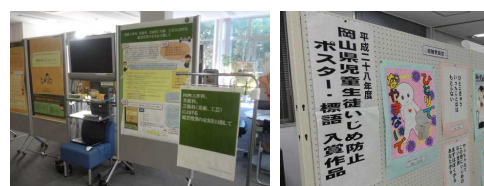
長期研修員の発表

- 特別支援教育(小学校)
- 国語(中学校)
- 数学(高等学校)



展示や演示

- ・研修講座及び学校支援等の展示
- ・教育資料の展示
- ・岡山県の教育施策等に関する展示
- ・国の動向に関する展示
- ・模擬体験講座



詳しい案内はこちら→
を御覧ください。



問い合わせ先
岡山県総合教育センター
(教育研究発表大会: 赤木)

※ 写真は全て昨年度の大会の様子です。

皆様の御参加をお待ちしております。

【バックナンバー】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>

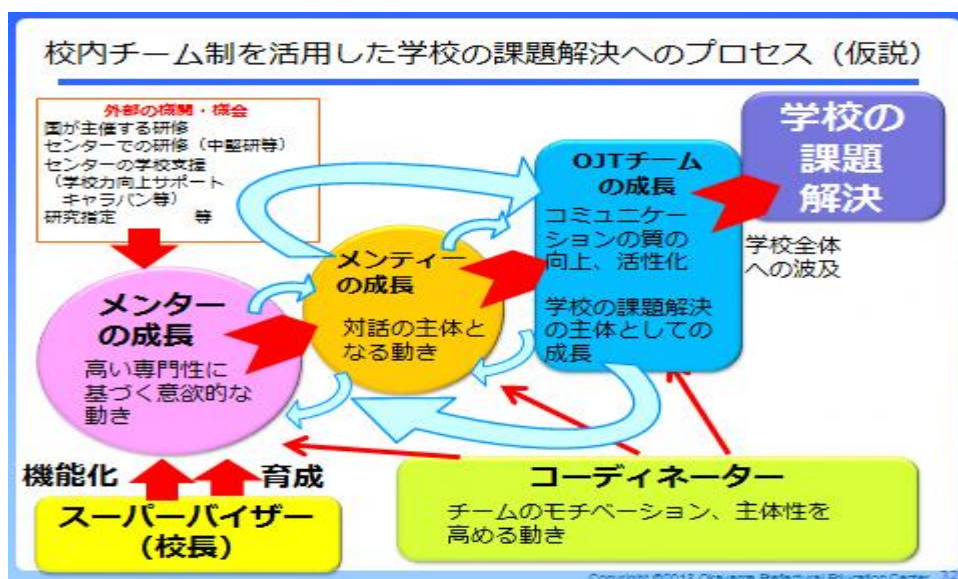
羅針盤

平成29年度第11号(通算289号)
平成30年2月23日(金) 発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

学校の課題解決に向けた校内チーム制の効果的な進め方 II

学校の課題解決へのプロセス

シリーズ I で紹介したアンケート結果では、「校内チーム制を機能させる上で重要な立場」に着目しました。「機能させる上で重要だと思う立場の人を重要と思う順から三つ挙げてもらったところ、メンター（先輩教員）31%、メンティー（若手教員）23%、コーディネーター25%という結果になりました。※ その理由に関する記述内容も含めて分析すると、メンターとメンティーを中心とするOJTチームの重要性、すなわち、メンティーのOJTへの積極的な参加を引き出すメンターの高い専門性に基づく動きが鍵になることが見えてきました。※三位までの合算集計



シリーズ II では、以上の分析結果と研究協力校である倉敷市立長尾小学校・勝央町立勝央中学校での実践の分析をもとに、各立場の人がどのような意識をもって、どのように動くことで学校の課題解決につながっていくのかというプロセスについて、左図のような仮説を立てました。

ポイント

【成長したメンターの意欲的な動き】

高い専門性に基づくメンターの意欲的な動きが、メンティーの意欲を向上させ、自ら対話の主体となるなどのメンティーの成長を促します。長尾小では、メンターが専門的立場からの助言を行ったり、本音で語り合える雰囲気づくりに努めたりしました。勝央中では、教科の違うメンティーの指導のために、その教科の学習指導要領を読みこむ等の動きが見られました。それらの動きが、メンティーの向上心の高まり・成長を促進しました。

スーパーバイザー（校長）の戦略

メンターが機能的に動ける体制づくりや育成を図ります。メンターの専門性を高めたり、育成したりするには、サポートキャラバン等外部の刺激を活用することも有効です。

コーディネーターの支援

メンターが動きやすくなるように支援し、OJTチームのモチベーションや主体性を高めるような関わり合いをすることが大切です。

これらの動きにより、その過程で、メンター・メンティーと同時にOJTチームも成長し、学校の課題解決の主体となっていきます。この成長したチームの力が学校全体に波及することで、学校の課題解決につながっていくと考えます。今後、高等学校・特別支援学校においても仮説を分析・検証し、研究を進めて行く予定です。

(担当・教育経営部)

※次号の発行は3/2（金）の予定です。

【バックナンバー】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>

羅針盤

平成 29 年度 第 12 号（通算 290 号）
 平成 30 年 3 月 2 日（金）発行
 岡山県総合教育センター
 Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

小学校プログラミング教育全面実施に向けて

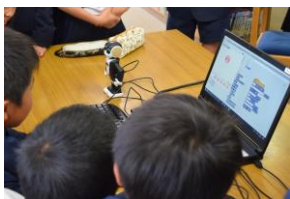
新学習指導要領では、小学校段階において学習活動としてプログラミングに取り組むことになっています。このねらいは、児童がプログラミング言語を覚えたり、その技能を習得したりといったことではなく、「プログラミング的思考」と呼ばれる論理的な思考力を育むことや、各教科等で学ぶ知識及び技能等をより確実に身に付けさせることにあります。各小学校においては、こうしたプログラミング教育のねらいを踏まえ、教科等における学習上の必要性や学習内容と関連付けながら、無理なく確実に実施できるよう、教育課程全体を見渡し、プログラミングを実施する教科・学年・単元を決定し計画していくとともに、必要な ICT 環境を整えていくことが求められます。また、教員自身が研修等においてプログラミングを体験することも有意義と考えられます。

全面実施に向けて県内でも多くの実践が行われていますので、ここでは、主な実践を紹介します。

笠岡市立神内小学校 第 6 学年

内容 人とロボットが言葉でコミュニケーションできるプログラムの作成

主教材 ロボホン(SHARP)



早島町立早島小学校 第 6 学年

内容 省エネにつながるセンサーライトの仕組みをプログラミングで再現

主教材 MESH (SONY)



新見市立新砥小学校 第 5・6 学年

内容 観光客を案内するプログラムを作成し、プレゼンテーションを実施

主教材 Pepper (SoftBank)



西栗倉村立西栗倉小学校 第 6 学年

内容 プログラミングで歩行者用の信号機の動きを再現

主教材 アーテックロボ (アーテック)



この他にも、ブラウザ上で動くプログラミング教材である「プログル」<https://proguru.jp/>（特定非営利活動法人みんなのコード）を活用した実践も行われています。

なお、文部科学省は、プログラミング教育の趣旨等をより分かりやすく解説した「小学校プログラミング教育指針」（仮称）を本年度中に取りまとめる予定です。（担当：情報教育部）